

## 自閉症のある子どもの確かな学びのために！ 自閉症教育のキーポイントが豊かな未来をひらきます

### 【研究を行った背景】

自閉症のある子どもの学校教育における支援の充実は、中央教育審議会等の報告においても指摘があり、緊急の課題として位置付けられています。発達障害者支援法（平成17年4月施行）や、学校教育法等の一部改正（平成19年4月）など、自閉症教育を推進するための重要な法律が施行されました。本研究では、このような状況において、自閉症教育に関して、学校における取組の平均的な基準、スタンダードの確立をめざすべく、自閉症教育の改善のための具体的なツールを開発・提案し、指導内容、指導方法、自閉症の特性に応じた教育課程等を検討しました。

### 【研究結果】

本研究では、自閉症教育における学習の基本構造を図1に示すように整理しました。この学習の基本構造を前提に、自閉症の特性に応じた指導内容・方法、教育課程等を検討し、学校組織及び一人一人の教員が、自閉症教育を改善していくためのツールとして、「学校全体で自閉症教育に取り組むためのチェックリスト」、「学びを促進するための特性の理解と活用のチェック表」、「自閉症教育のキーポイント」、「授業の評価・改善シート」、「個人別の課題学習」等を開発・提案しました。

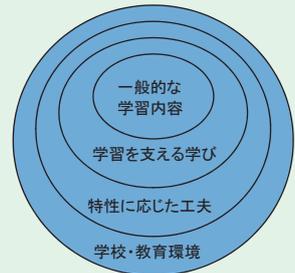


図1 自閉症教育における学習の基本構造

#### 《学校全体で自閉症教育に取り組むためのチェックリスト》とは

シートA「指導内容・方法」、シートB「学校マネジメント」からなる40項目で構成されています。現状の分析や継続的な取組状況をモニターするために活用したり、研修に活用したりするなど、自閉症教育の改善のために使用することを目的としました。

#### 《学びを促進するための特性の理解と活用 チェック表》とは

自閉症のある子どもには、以下のような学習上の困難や特性が見られます。これらの特性を「強み」としてポジティブに理解し、学びを促進する指導・支援に努めることが大切です。

- ①意思伝達の質的な困難
- ②对人的相互反応における質的な困難
- ③行動や興味が限定され、反復的で常同的な様式がある場合
- ④感覚の過敏、または鈍感がある場合
- ⑤手続き的な記憶の仕方が得意な場合
- ⑥短期記憶より、長期記憶に働きかける学習方法が有効な場合
- ⑦聞きながら学ぶより、動作・操作を伴った学習方法が有効な場合
- ⑧聴覚より、視覚的な情報処理が得意な場合
- ⑨特別な能力（独特の思考方法等）を有する場合
- ⑩同時に複数の情報を処理することが難しいことがある場合「モノ・トラック（シングル・フォーカス）」
- ⑪がんばりどころや、休むべきところを取捨選択するのが難しいことがある場合「セントラル・コヒーレンス」

#### 《自閉症教育のキーポイント》とは

自閉症のある子どもの1000サンプルの実践例をビデオ分析し、7つのキーポイントして整理しました。図1の「学習を支える学び」にあたる部分です。キーポイントは、アセスメントや自立活動の目標と内容のエッセンスなど、幅広い活用の可能性を持っています。

- 自ら学習する態勢になる力
- 自ら指示に応じる、指示を理解できる力
- 自ら自己を管理する、調整する力
- 自ら楽しいことや嬉しいことを期待して活動に向かう力
- 自ら何かを伝えようとする意欲と個に応じた形態を用いて表出する力
- 自ら模倣して、気づいたり学んだりする力
- 自ら課題解決のために注視すべき刺激に注目できる力

#### 《授業の評価・改善シート》とは

- ①自閉症教育の7つのキーポイントを実際に活用する、②授業の計画・実行・評価・改善をねらった授業づくりの二点をねらって開発したツールです。プラン、シート、カルテ、メモリーの4つの書式からなっています。

#### 《個人別の課題学習》とは

「自立活動を『核』とした領域・教科を合わせた指導」の形態の総称であり、従来の「遊びの指導」「生活単元学習」とは、根本的に発想が異なるものです。個々の障害の状態や発達の程度に応じて課題設定をすることを前提としていますが、実際の指導場面では、「個別での学習」「小グループでの学習」「集団での学習」などのタイプがあると考えます。

## 【研究結果の効果・効用】

本研究では、総合的なアセスメント方法として、①学校全体で取り組むためのチェックリスト、②学びを促進するための特性の理解と活用のチェック表を活用し、また、特性に応じた指導内容・方法として、③自閉症教育のキーポイント及び④それを活用した授業の評価・改善シート、⑤特性に応じた教育課程を検討し、それらを指導パッケージとして開発しました。研究協力校、研究パートナー校の実践データを踏まえ、質の高い自閉症教育を実現するためには、自閉症の特性を踏まえ、キーポイントを核とした「個人別の課題学習」の展開が重要であると考えます。この指導パッケージのエッセンスや指導内容・指導方法、自閉症の特性に応じた教育課程は、特別支援学校の実践だけではなく、小・中学校においても応用できるものと期待しています。

## 【研究結果の活用】

### (1) キーポイントと授業の評価・改善シートの活用

本研究所では、本研究の成果を基礎にして、平成17年度より、各都道府県における自閉症教育の指導者養成のための「自閉症教育推進指導者研修」を、筑波大学附属久里浜特別支援学校と共同で3年間行いました。このプログラムの一環である筑波大学附属久里浜特別支援学校での「授業の実践演習」においても活用し、授業改善の取組を行いました。現在は、研究協力校やこの研修の修了者をはじめとして、キーポイントや授業の評価・改善シートは、全国で活用されています。



筑波大学附属久里浜特別支援学校での演習

### (2) 「自閉症教育実践マスターブック」の活用

本研究の成果を、より多くの学校や自閉症教育に携わっている方々、関心のある方々に役立てていただくために、研究報告として「自閉症教育実践マスターブック ―キーポイントが未来をひらく―」を刊行しました。自閉症教育の7つのキーポイントを中心に、授業の評価・改善シートの特別支援学校（知的障害）における活用事例や「学びを促進するための特性と理解の活用」の解説や実践事例などを盛り込み、具体的にわかりやすくまとめました。

## 【関連情報】

「自閉症教育実践マスターブック ―キーポイントが未来をひらく―」は、次のような構成で作成しています。

- 第一章 自閉症の特性に応じた教育
- 第二章 学校全体で自閉症教育に取り組むためのチェックリスト
- 第三章 学びを促進するための特性の理解と活用
- 第四章 自閉症教育のキーポイント
- 第五章 授業の評価・改善シート
- 第六章 自閉症の特性に応じた教育課程と学校教育



<http://www.kyoikushinsha.co.jp/>

「自閉症教育実践ガイドブック」, 「自閉症教育実践ケースブック」と合わせて、三部作として作成しました。

本リーフレットは、研究所で行った次の研究を基に作成しています。

## 【研究課題名（研究期間）】

特別支援学校における自閉症の特性に応じた指導パッケージの開発研究  
―総合的なアセスメント方法及びキーポイントとなる指導内容の特定を中心に―  
(平成18年度～平成19年度)

## 【研究代表者名／問い合わせ先】

研究代表者 小塩 允護 (平成18年度)  
徳永 豊 (平成19年度)

研究分担者 徳永 豊 (平成18年度)  
内田 俊行  
木村 宣孝  
佐藤 克敏 (平成18年度)  
齋藤 宇開  
涌井 恵 (平成18年度)  
小澤 至賢  
柳澤亜希子 (平成19年度)